

◆東京ユニバーサル・ファイルハーモニー

管弦楽団 第23回定期演奏会

音楽監督・常任指揮者三石精一の

指揮。今回はリムスキートルサコ

フ没後100周年として交響曲第2

番「アンタール」(1897年版)と

交響組曲「シェエラザード」とプロ

コファイエフのピアノ協奏曲第3番

(ピアノリ小川典子)が演奏された。

「アンタール」は演奏頻度の低い曲目

だが、幻想的な雰囲気とリムスキ

ートルサコフお得意の精緻な管弦

楽法が聴きもので、ユニ・ファイルも

三石の要所をしつかり締めた解釈で

愉しめる演奏を行なった。小川典子

をソリストに迎えたプロコファイエフ

も堂々としていて、細部を克明にし

た分かりやすい演奏だ。小川は優れ

た技巧に加え、伶俐なりリズムを

聴かせ、この曲の本質を明らかにし

ていた。プログラムの最後の「シェエ

ラザード」は冒頭かのトゥツティの

分厚い響き、各所に魅せる楽器の音

色美、ヴァイオリン・ソロ(後藤龍

伸)の節回しの妙など聴きどころの

多い演奏。三石の的確な棒が冴えて

いた。(4月26日、東京芸術劇場)

(保証裕史)